

# 債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー


















南アフリカ



インドネシア



インド

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		1/25 （1/18との比較） 今後の見通し （※4）	1/25 （1/18との比較） 今後の見通し （※5）	前年比 （※3） 景気の方向性 （※6）	先週末 方向性 （※7）		
カナダ 	AAA	1.98% （▲0.06）	82.88円 （+0.10%）	+2.1% 2018年3Q	1.75%	発表された製造業売上高や小売売上高は市場予想を下回る結果。原油価格が徐々に持ち直したことや、リスク回避姿勢の後退などから、カナダドルは対円で上昇。国債利回りは低下。	GDP（国内総生産）や製造業PMIなどが発表予定。GDPの結果は中銀の利上げ判断に影響を及ぼすことから、行方には要注目。債券・為替市場はともに概ねレンジ内での動きを想定。
	Aaa	 金利横ばい	 金利横ばい	 景気安定	 利上げ局面		
ブラジル 	BB-	8.32% （▲0.09）	29.05円 （▲0.66%）	+1.3% 2018年3Q	6.50%	発表された消費者信頼感は前回分を上回る結果。引き続き、米中通商問題に対する不透明感などが重しとなり、ブラジルレアルは対円で下落。国債利回りは低下。	経常収支などが発表予定。世界経済フォーラム（ダボス会議）で自国経済の開放を進める考えを示したことなどから、行方には要注目。債券・為替市場はともに概ねレンジ内での推移を想定。
	Ba2	 金利横ばい	 金利横ばい	 景気回復	 据え置き局面		
メキシコ 	A-	8.20% （▲0.26）	5.77円 （+0.38%）	+2.5% 2018年3Q	8.25%	発表された1月第2週までのCPI（消費者物価指数）は市場予想を下回ったものの、インフレ抑制に道筋がつつあると評価されたことなどから、メキシコペソは対円で上昇。国債利回りは低下。	GDPや製造業PMIなどが発表予定。引き続き、パイプラインからの燃料窃盗問題や、メキシコ国境の壁建設問題には注意が必要。債券・為替市場はともに概ねレンジ内での推移を想定。
	A3	 金利横ばい	 金利横ばい	 景気安定	 利上げ局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。




※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		1/25 （1/18との比較） 今後の見通し （※4）	1/25 （1/18との比較） 今後の見通し （※5）	前年比 （※3） 景気の方向性 （※6）	先週末 方向性 （※7）		
オーストラリア 	AAA	2.21% （▲0.10）	78.65円 （▲0.03%）	+2.8% 2018年3Q	1.50%	発表された失業率は市場予想を下回る結果。世界景気後退見通しに焦点が当たる中、豪州4大銀行の1行が住宅ローン金利を引き上げるとの報道などから、豪ドルは対円で下落。国債利回りは低下。	CPIやPPI（生産者物価指数）などが発表予定。CPIの結果は今後の中銀の利上げ判断に影響を及ぼすことなどから、行方には要注目。債券・為替市場はともに概ねレンジ内での推移を想定。
	Aaa	→ 金利横ばい	→	→ 景気安定	→ 据え置き局面		
ニュージーランド 	AA+	2.31% （▲0.01）	74.92円 （+1.22%）	+2.6% 2018年3Q	1.75%	発表されたCPIは市場予想を上回る結果。また、市場のリスク許容度の高まりなどを受けて、通貨は上昇する展開となり、ニュージーランドドルは対円で上昇。国債利回りは小幅低下。	貿易収支や消費者信頼感指数などが発表予定。米中通商問題や英国のEU（欧州連合）離脱問題など、海外の材料が目白押しであり、債券・為替市場はともにこれらの結果を受けた一進一退の展開を予想。
	Aaa	→ 金利横ばい	→	→ 景気安定	→ 据え置き局面		
ノルウェー 	AAA	1.75% （▲0.04）	12.87円 （+0.29%）	+1.1% 2018年3Q	0.75%	中銀は金融政策決定会合で政策金利の据え置きを決定。声明文では2019年3月の利上げの公算が大きいとのガイダンスを繰り返す、ノルウェークローネは対円で上昇。国債利回りは低下。	小売売上高や製造業PMI、失業率などが発表予定。米中通商問題や英国のEU離脱問題など、海外の材料が多く、債券・為替市場はともにリスク許容度の変化に影響を受け、方向感を探る展開を想定。
	Aaa	→ 金利横ばい	→	↑ 景気拡大	↑ 利上げ局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		1/25 （1/18との比較）	1/25 （1/18との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
南アフリカ 	BB+	8.01% （+0.00）	8.05円 （+1.63%）	+1.1% 2018年3Q	6.75%	発表されたCPIは市場予想通りの結果。米中通商問題に対する不透明感などはあるものの、世界的にリスク回避姿勢が後退したことなどから、ランドは対円で上昇。国債利回りは横ばい。	PPIなどが発表予定。市場予想では前月より低下を見込む。南アフリカ固有の材料には乏しいものの、FOMC（米連邦公開市場委員会）や米中通商問題などが、債券・為替市場の変動要因となると見込む。
	Baa3	 金利横ばい		 景気停滞	 据え置き局面		
インドネシア 	BBB-	7.99% （+0.00）	0.78円 （+0.71%）	+5.2% 2018年3Q	6.00%	特段重要な経済指標等の発表はなし。主要な経済指標の発表がない中、投資家のリスク許容度が改善したことなどを背景に、ルピアは対円で上昇。国債利回りは横ばい。	CPIや製造業PMIなどが発表予定。インフレ上昇率は引き続き中銀の目標範囲内に推移すると見込む。また、29日の国債入札において、投資家のインドネシア国債の需要度合いに注目。為替市場は概ねレンジ内での推移を想定。
	Baa2	 金利上昇		 景気拡大	 利上げ局面		
インド 	BBB-	7.37% （▲0.05）	1.54円 （+0.23%）	+7.1% 2018年3Q	6.50%	特段重要な経済指標等の発表はなし。世論調査の結果で、政権与党がインド最大の州で大幅に議席を失う可能性が示されたものの、原油価格が小動きだったことなどから、インドルピーは対円で上昇。国債利回りは低下。	財政収支や製造業PMIなどが発表予定。2月1日に財務大臣が暫定予算を議会に提出する予定であることから、行方には要注目。債券・為替市場はともに概ねレンジ内での推移を想定。
	Baa2	 金利上昇		 景気回復	 据え置き局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（南アフリカ：5年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。

※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

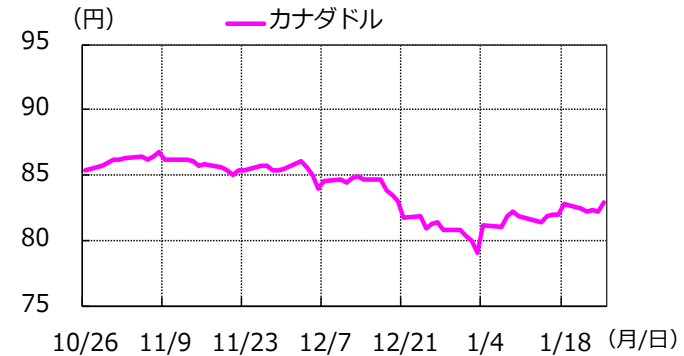
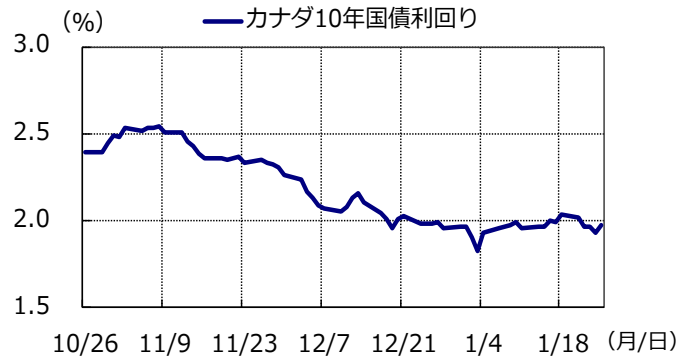
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。

※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

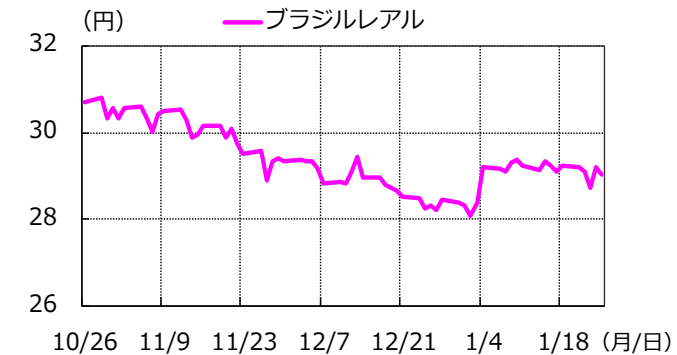
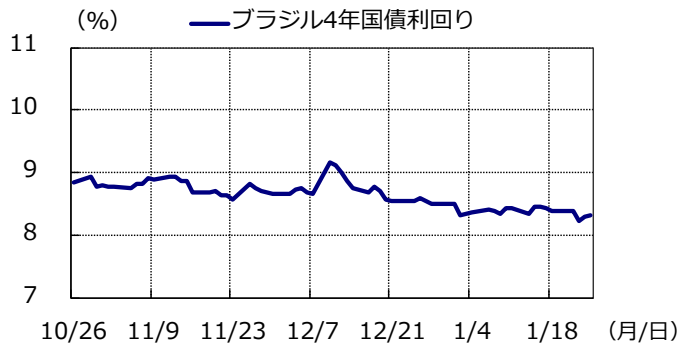
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2018/10/26～2019/1/25

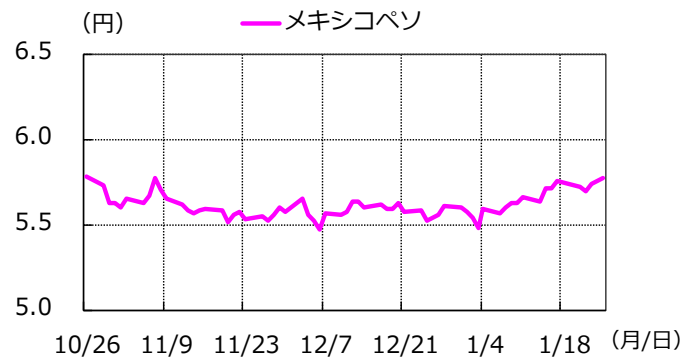
カナダ



ブラジル



メキシコ

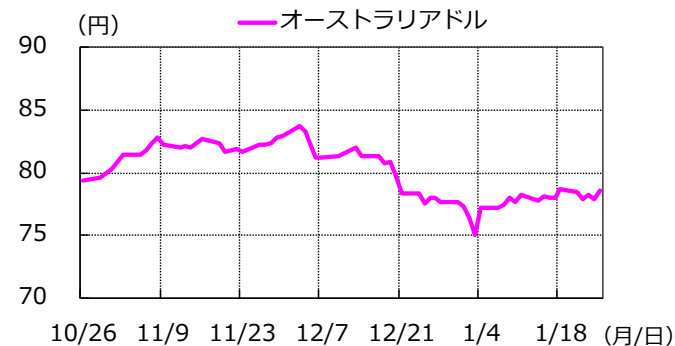
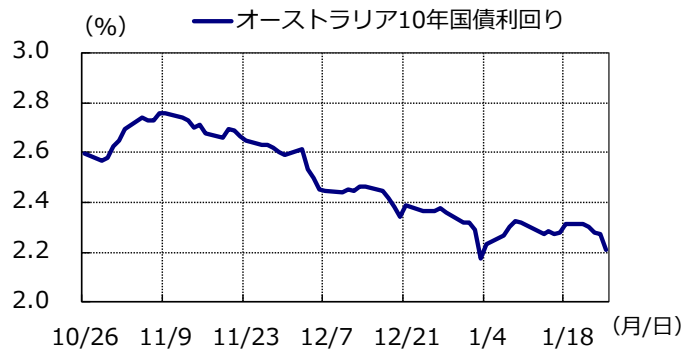


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

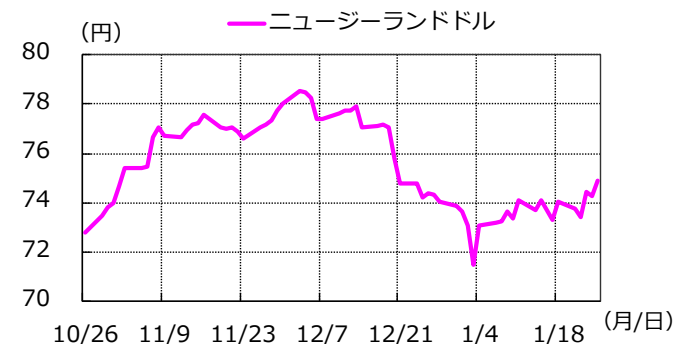
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2018/10/26～2019/1/25

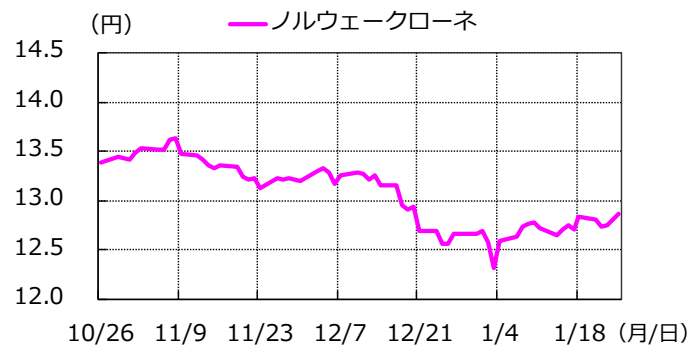
オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

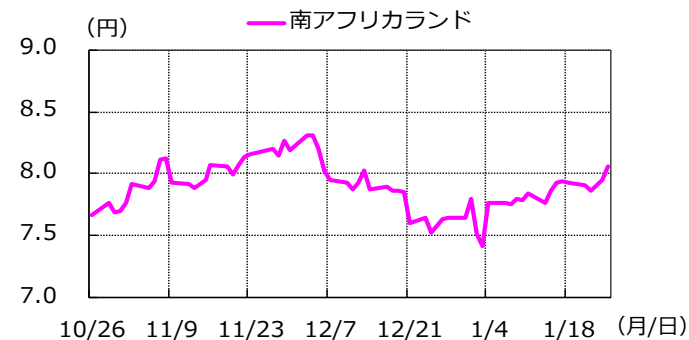


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバークのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

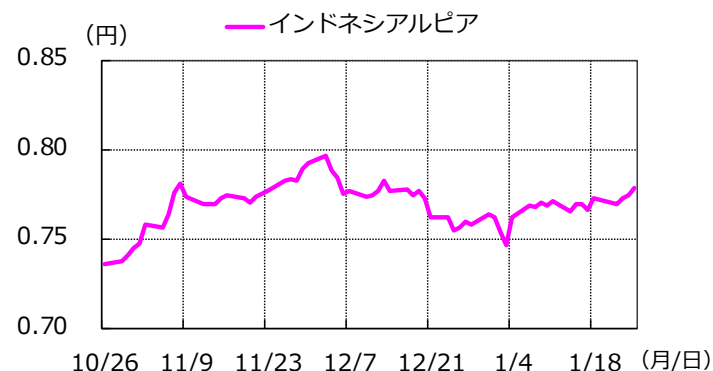
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2018/10/26～2019/1/25

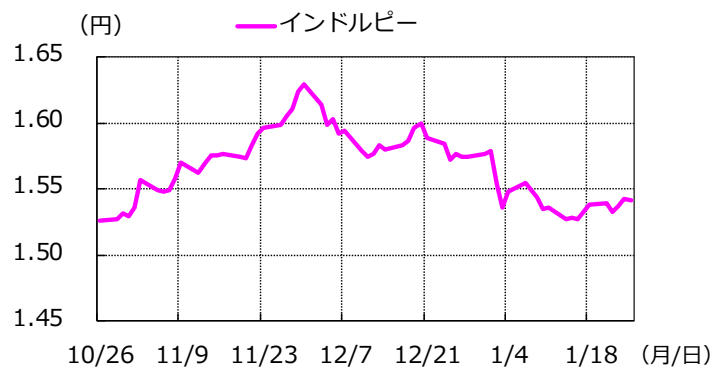
南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

# 投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

## 【投資信託に係るリスクと費用】

### ● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

### ● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

#### ■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.78%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

#### ■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.6824%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

## 【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。